令和7年度　未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書（報告書）

学校番号	17	学校名	日川高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	583　名
スクールポリシー（学力に関するもの）	・ 単位制を生かした教育課程を編成し、土曜サプリ等課外授業の充実により、確かな学力を養い、一人ひとりの進路実現に向けてきめ細かな指導を行う。 ・ 大学と連携した取り組みや、さまざまな研究機関との連携した取り組みにより、社会分野、理工学分野に関する知見を広める。 ・探究活動、課題研究をとおして、課題を発見し解決しようとする意欲、リテラシー、批判的思考力、プレゼンテーション能力を育成する。						
グラデュエーションポリシー	・幅広い知識と高い学力を身に付け進路実現を図り、主体的に課題に強く取り組むことができる社会の担い手としての資質、能力を身に付ける。 ・心身ともに健全で、他者を思いやる豊かな感性を育み、グローバルな視点をもつリーダーとしての資質・能力を身に付ける。 ☆ 身に付けるべき資質・能力 主体性、協働性、粘り強さ 思考力、判断力、表現力、自己分析力、課題解決力 自己管理力、情報活用力、コミュニケーション力						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
○	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
○	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
○	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組

(1) 生徒の多様なニーズに応じた家庭学習習慣の確立や部活動時間の確保に努める。
(2) 学習目標を明確化し、指導と評価の一体化に努め授業力の向上を図るとともに、ICT を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する。
(3)「Classi」や「サタデーサプリ・きずなの日」を有効活用した最適な学習環境を構築し、学習と部活動の両立を図る。
(4) SSH 研究開発の成果と課題を全校で共有し、生徒の興味・関心を高める指導の工夫に努める。

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移（%）	R7中間	R7末
（各校の授業アンケートに基づく）		
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた　（①強くそう思う，②そう思う）	89.0%	92.9%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた　（①強くそう思う，②そう思う）	87.4%	91.4%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた　（①強くそう思う，②そう思う）	87.2%	88.1%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた　（①強くそう思う，②そう思う）	79.9%	83.0%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　（①強くそう思う，②そう思う）	92.5%	94.3%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる　（①強くそう思う，②そう思う）	93.0%	94.5%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った　（①強くそう思う，②そう思う）	90.0%	93.4%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた　（①強くそう思う，②そう思う）	95.9%	97.4%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた　（①強くそう思う，②そう思う）	92.8%	96.0%

総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む）

授業アンケートでは全ての項目で高評価が8割以上であり、生徒が主体的に授業に取り組む姿勢がうかがえる。例年、「授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価する」という項目は高評価が6～7割であったが、今年度は「授業の始まり」「授業の終わり」ともに良い評価が得られており、生徒教員ともに、目標を明確にしその達成度を確認し次に繋げることができていると考えられる。各教科の目標でも中間評価から年度末評価が伸びている。

次年度に向け、部活動と学習の両立、AIへの対応、SSHの成果の共有が課題として挙げられる。部活動と学習の両立については、課題や学習内容を生徒の状況をみながら引き続き精選し検討していく必要がある。AIについては、教科や学習内容の特性に応じて、効率的な学習や知識や技術の応用を目的に取り入れていく予定である。またSSHについては、これまでの取り組みを継続・発展させ探究活動を他教科の主体的な学びにつなげていきたい。

各教科の取組　※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。

教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	【知識及び技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語に対する理解を深め適切に使うことができる。	4.2	4.4	主に古文漢文の理解が進んでいないため、伝統文化に根差した言語や常識において教養を広げていく必要がある。また複数資料を読み取る技法の習得を目指し課題提示をしていく。
	【思考力，判断力，表現力】論理的に考える力や豊かに想像する力を養い、伝え合う力を高める中で自分の考えを発展させることができる。	4.2	4.3	多岐に渡る文章に触れさせ、単元ごとに自身の考えをまとめ共有する中で、思考を深め多くの表現方法を身に付けさせていく。読むこと、書くことの時間をバランスよく取り力を養っていく。
	【学びに向かう力，人間性等】言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	4.3	4.3	1つの教材から関連する事項へと興味関心を広げていく工夫を施していく。その際に他者とのかかわりを重視し、共に学ぶことで得られる成長を自覚させ、さらなる意欲に繋げていく。
地公	【知識及び技能】歴史上の諸事象、および現代の諸課題について理解を深めるとともに、資料を比較検討して必要な情報を調べ適切にまとめることができる。	4.2	4.3	基本的な知識の定着が不十分なので、家庭学習時間の確保に努める。また、歴史上の諸事象、および現代の諸課題の考察に必要な情報の収集・整理を意識した授業構成を検討する。
	【思考力，判断力，表現力等】歴史上の諸事象、および現代の諸課題について、多面的・多角的に考察を深め、合理的に判断し、発展的に表現することができる。	4.1	4.2	授業で学んだ知識を手掛かりに、歴史上の諸事象、および現代の諸課題を総合的に考察する場面を学習のなかに設ける。また、表現力を磨くために、様々な手段で自分の考えを表現する練習を行う。
	【学びに向かう力，人間性等】民主社会に生きる人間の在り方・生き方について、自らの問題として主体的に思索を重ねることができる。	4.2	4.3	社会的な事象を自分の問題として考えさせるため、学習で得た知識や考え方を活用して、自分が生きている社会の在り方や自分自身の生き方を考えさせるような場面を設定する。
数学	【知識及び技能】事象を数学化したり、数学的に解釈したりする能力の基礎を身に付け、処理することができる。	4	4.2	事象の数学化のために、公式や定理を覚え、正しく活用することが必要であり、その部分は成長が見られる。ただし、読み取ったことを立式する表現・処理や多面的な考察力の習得は十分ではない。
	【思考力，判断力，表現力等】数や式を目的に応じて適切に変形し、事象を的確に表現できる。	3.9	4.1	式の変形に比べて、値や式を表・グラフに変換することが苦手な生徒が多い。式の本質を理解させることが必要である。
	【学びに向かう力，人間性等】問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。	4.1	4.2	生徒が自らの考えを発表し、なぜそのように考えたかを議論する場面が増えた。他者の考えを自らの考えに反映させ、更に考察を深めていくことできるようにさせたい。
理科	【知識及び技能】自然の事物・現象について科学的に探究するために必要な知識及び技能の基礎を身に付ける。	4.2	4.2	探究するための知識は身に付けることができたが、技能は分野によっては不十分であるものがあった。探究活動を行う回数の改善を行いたい。
	【思考力，判断力，表現力等】自然の事物・現象から生じる課題に対し、科学的・批判的に思考し、表現することができる	4.1	4.1	課題に対して、グループ対話を通して科学的・批判的に考えることができた。しかし、発展的に表現するところが不十分であったので、発展的に表現できるような指導の改善を行いたい。
	【学びに向かう力，人間性等】自然の事物・現象に対し、課題を発見して主体的に探究し、解決しようとする姿勢を持つことができる。	4.2	4.2	個々が主体性をもって、探究できた。しかし、課題解決までは至らなかったことが多いと考えられるので、課題解決を目指した態度の育成を目指したい。
英語	【知識及び技能】言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、実際のコミュニケーションの場面において活用できる	4.1	4.2	基本的な語彙や文法の知識を定着させ、それを活用できる実感を得ることで、さらなる知識技能の修得を目指すサイクルを作りたい。そのための家庭学習の習慣が身に付くように支援していきたい。
	【思考力，判断力，表現力】目的・場面・状況等に応じて、社会全般に関する幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる	4.1	4.2	さまざまなジャンルの英文に触れ、内容について考えたことを口頭や文章で表現する・共有する機会を持ちたい。やりとりや発表、書くことなど、状況に応じた表現方法も身に付けたい。
	【学びに向かう力，人間性等】文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションをとろうとする。	4.2	4.3	コミュニケーションをとる相手を意識し、身につけた知識・技能をどう使用するかを自ら判断し表現する主体性を見取る機会を多く持ちたい。
芸術	【知識及び技能】生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かにかかわる知識及び技能を身に付ける。	4.1	4.4	芸術に関する様々な知識・教養・技能の習得のため、様々な教材を用いる機会を増やしていきたい。
	【思考力，判断力，表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わうことができる。	4.1	4.4	自分なりの表現や、芸術への造形を深めるため、さらに多くの分野の芸術に触れ、文化的感性を涵養したい。
	【学びに向かう力，人間性等】生涯にわたり芸術を愛する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を持つことができる。	4.1	4.3	芸術を感受する心や君芸術をとおして、自らの生活を豊かなものにする姿勢を伸ばしていきたい。
家庭	【知識，技能】生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、保育、消費や環境などについて理解し、それらにかかわる技能を身に付ける。	4.4	4.4	実験・実習がある分野は成果がでやすいが、他の分野についても理解が実生活に結び付けられるようにしたい。
	【思考力，判断力，表現力】生活の中から問題を見いだして、解決策を構想し、根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	4.4	4.4	根拠に基づいて論理的に表現する点がまだ欠けているので、相互評価を生かすことで高めていきたい。
	【学びに向かう力，人間性等】さまざまな人々と協働し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	4.4	4.4	主体的に創造しようとする点において足りていない面があるで、BYOD、グループワークなどを活用し、実習以外にも考えさせたり話し合いをさせる場面を増やしていきたい。
保体	【知識及び技能】運動の特性に応じた行い方やルールの知識を理解することと運動の特性や魅力、目的に応じた技能を表現することができる。	4.4	4.5	それぞれ各自が選択した種目に対して積極的に取り組むことができた。レベル別や男女一緒に行うなど交流の場を増やしていきたい。
	【思考力，判断力，表現力等】自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組方を工夫することできる力。	4.4	4.5	個のレベルアップのため、BYOD等の活用をし振り返りをすることはもちろんのこと、集団として仲間や相手にも互いに教えあう環境つくりが必要である。
	【学びに向かう力，人間性等】様々なスポーツに触れ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を持つことができる。	4.5	4.5	自ら生涯にわたってスポーツを継続できる種目を選択し、よりよい環境を作りだせるような環境を作り出せるように各自、グループで運動プログラムの育成について考えさせたい。
情報	【知識及び技能】情報社会を生きるための知識やICTリテラシーを身に付け、目的に応じた技能や手段を選択し表現することができる。	4.3	4.3	AIやアプリなどネットの利活用は得意だが、AIの発展に伴う情報社会の危険性や法規などへの理解を高めていく要性があると考える。また情報の収集や発信におけるリテラシー力の育成高めていきたい。
	【思考力，判断力，表現力等】生活における多様な問題に対して、データやシミュレーションなどの情報リテラシーをもとに論理的に思考し、向き合うことができる。	4.2	4.3	データ分析で散布図から相関を導いたり、結果の考察に取組むなどデータを読み解く力を高めることができた。今後はプログラミングを用いてのデータ分析など、複合的な学びを実施していきたい。
	【学びに向かう力，人間性等】 ICTを利活用し、他者と協働しながら情報社会に参画できる姿勢を身に付ける。	4.2	4.3	多様な実習の中で、ワークシートなどを用いて互いの意見をディスカッションして活動した。今後はよりプレゼンなどの発表の場を設けるなど他者と協働に取り組む授業展開を取り入れていきたい。
総探	【知識及び技能】関心のある分野について正しく理解し，課題発見のための知識や技術を身に付ける。		4.4	新たな分野や実験や独自の視点から取り組み、研究を深化させた生徒もいる一方で、分野によっては調査に留まり，探究活動に発展させることが困難な生徒もいた。個別指導や、個に応じた橋渡しが必要である。
	【思考・判断・表現】課題発見や設定において，必要な情報を収集整理し発表できる。		4.3	過去の文献やインターネット上の情報から調査し理解した内容に留まることのないよう、課題解決に向けた実験を行い、その結果を論文にまとめ発表する手順を示す。
	【学びに向かう力，人間性等】自分や社会生活の発展のために進んで探究活動に取り組むことができる。		4.4	興味関心のある課題設定から、主体的に学習に取り組む態度は概ねできている。自主的に外部と連携ができるよう手順の整理が必要である。